

# 平成30年度 指定管理者事業報告概要及び評価

報告期間:平成30年8月1日～平成31年3月31日

施設名	大和市北部文化・スポーツ・子育てセンター
指定管理者	やまとみらい
指定期間	平成30年8月1日～令和3年3月31日

## 1. 事業報告概要

### 【1. 運営組織に関すること】

#### (1) 基本的な考え方

心に響く・心が躍る・心をつなぐ  
大和市の文化を創造し、市民が誇れる広場づくりを実現します

平成30年8月1日開館以来、大和市北部文化・スポーツ・子育てセンター 通称:大和市民交流拠点ポラリス(以下「ポラリス」という。)は多くの来館者をお迎えし、地域住民がくつろげる環境を整え、「健康都市」として楽しく健康的に行えるよう団体のみならず個人でも屋内スポーツを促進し、子育て世代のサポートとして様々な事業を行いました。また社会教育施設として中央林間地区で活動されている団体と様々な事業を展開し、地域に根ざした運営に努めました。

「指定管理者やまとみらい」の一体運営の強みを生かし、ポラリスならではの魅力ある事業、効率的な運営を行います。

「やまとみらい」は、引き続き、魅力的な文化の溢れる大和市を実現するために、各企業が持つ高度な専門性、そして運営スキルを最大限活用し、大和市に暮らす全ての方が誇れる広場(誰もが気軽に立ち寄り、交流を深め、創造や感動を生み出し、発信する)づくりを実現いたします。

#### (2) 組織体制

ポラリスの指定管理業務は、「株式会社図書館流通センター」・「サントリーパブリシティサービス株式会社」・「株式会社小学館集英社プロダクション」・「株式会社明日香」・「株式会社ボーネルンド」・「横浜ビルシステム株式会社」の6社からなる共同企業体「やまとみらい」で運営を行いました。

各企業との横断的連携をさらに密にすることで、「融合」された運営管理を行い、大和市との緊密な調整を進め、市民目線に立った一層の魅力ある運営に努めました。

「やまとみらい」の意志決定組織は、各社の責任者が構成する「やまとみらいJV会議」とし、さまざまな運営課題に対する協議や情報共有を行うため、月1回開催します。主宰は、代表企業である「株式会社図書館流通センター」が務めます。

現場サイドでは、運営に関する具体的な検討を行うため、日常的に利用者の声を直接聞き、ご意見箱でご意見を収集し、年に1回セルフモニタリングを行いました。頂いたご意見をもとに、運営に関することを職員で協議したうえで、運営業務を精査し、利用しやすい施設づくりに努めました。

広報は、各社との連携を取りつつ、広報誌やホームページの充実、地域との連携など、積極的に展開してまいりました。

大和市との連絡調整機関としては、市長、関係部課長も参加する「市長定例会議」を、関係課長と各企業の責

任者、各館長、所長が出席する「文化創造拠点シリウス連絡調整会議」を、それぞれ月 1 回開催するとともに、日頃から「図書・学び交流課長」と「やまとみらい統括責任者」、「ポラリス館長」の間で、情報交換を行うことで、大和市と「やまとみらい」の意志疎通を図り、円滑な管理運営に努めました。

### (3) 職員の育成

#### 1) 基本方針

「やまとみらい」では、ポラリスを運営する職員に必要な要素・能力を向上させるために研修を行いました。また、大和市文化創造拠点シリウスで実施するやまとみらい全体での研修にも積極的に参加しました。

#### 2) 職員研修

項目	開催日	内容	出席数
施設概要研修	6/25	施設の機能を理解する研修	10名
個人情報研修	6/25	個人情報に関する知識の習得	10名
社会教育施設研修	6/25	社会教育施設を運営するにあたっての知識の習得	10名
救命救急研修	7/10	MFA(上級救命と同等)の習得	11名
避難訓練	2/26	非常時の避難・誘導、急病人・負傷者の応急救護、通報訓練	12名

※2/26の避難訓練はこども一るの職員2名も含む

※その他、やまとみらい全体での研修

### (4) 個人情報の保護及び情報公開

#### 1) 個人情報の保護

##### ①基本方針

個人情報保護法 第 20 条に基づき、日常業務に取り組み、自治体から運営を受託する指定管理者制度では、法律として民間企業に義務付けられた「個人情報保護法」、大和市が定める「大和市個人情報保護条例」の 2 つを遵守し、作成した「個人情報保護マニュアル」に基づき、適切に管理してまいりました。

##### ②管理体制

ポラリス内における個人情報管理体制は、管理責任者を館長としました。

##### ③研修の実施

全職員を対象とした個人情報保護研修を平成 30 年 6 月 25 日に実施しました。

#### 2) 情報公開について

##### ①基本方針

「大和市情報公開条例」に基づき、公正で開かれた施設の実現を図り、本施設に対する市民の理解を深

めることで、市民と本施設との信頼関係を一層増進することを目指し、公平性、透明性、迅速性を持って対応しました。個人情報や第三者情報については、情報公開の趣旨を理解した上、情報の公開と保護を適正に行うとともに、情報公開請求に対応するだけでなく、自発的に施設の情報を発信するために掲示板や館内広報誌等の更なる充実を図りました。

## ②市との協力体制

開示請求があった場合は、まずは大和市と相談・協議し審議にかけることとし慎重に対応していくこととしていますが、具体的な開示請求はありませんでした。

## (5)セルフモニタリング

平成30年度事業計画書で設定したパフォーマンス指標について、達成値の総括を行いました。また、「株式会社小学館集英社プロダクション」が設定したセルフモニタリングを実施しました。

### <パフォーマンス指標> 平成30年8月1日～平成31年3月31日

項目		目標値	実績	総括
<b>取り組み</b>				
(1)年間来館者数		200,000人	277,439人	目標値の1.38倍を超える来館者を迎えることができた。
(2)駐輪場	利用者数	44,000台	46,281台	日常的に駐輪場がいっぱいになることが多く、臨時駐輪場を設けるほど利用があった。
(3)施設稼働率		50%	63%	アリーナや多目的室の利用が多かった。
(4)団体利用数		5,700コマ	7,133コマ	
(5)個人利用	登録数	1,000人	1,988人	約2倍近くの登録があった。
	利用者数	5,600人	4,827人	認知度が低かった。
(6)市民交流スペース利用者数		104,000人	119,193人	近隣の小学生が放課後に多く利用いただいた。
(7)生涯各期事業	実施回数	15事業/40日	20事業/46日	
	参加者数	1,000人	1,354人	
	満足度	80%	90%	
(8)地域文化振興事業	実施回数	2事業/2日	2事業/2日	
	参加者数	300人	521人	
(9)センターまつり	実施回数	1事業/2日	1事業/2日	
	参加者数	1,000人	1,989人	
	満足度	75%	81%	
(10)利用者懇談会等	実施回数	1回	0回	開館後間もなかったため
	参加者数	30人	0人	
(11)研修	実施回数	5回	5回	
(12)スタッフの待遇への満足度		75%	82%	

設定したセルフモニタリングを実施し、接遇等の満足度について、ご来館者アンケートを2月15日～2月25日の期間で実施しました。

## 【2. 利用者サービスに関すること】

### 1) 基本方針

「大和市生涯学習推進計画」に則り、施設の運営にあたりました。「豊かな心と感動が広がるまち」の実現を目指し、市民への様々な活動の場を提供し、誰もが気軽に集える場所となるように努めました。また、本館である生涯学習センターと連携を密に行い、効率的な運営を行いました。

具体的には

- ・市民が気軽に集える場の提供を行いました。
- ・個人利用の周知と利用促進に努めました。
- ・生涯各期や現代的課題など市民のニーズに合わせた講座を開催しました。
- ・他学習センターと連携した事業・講座を実施しました。

### 2) サービス提供に関する取り組み

公平・公正なサービスはもちろんのこと、以下の考えに則り、すべての利用者に学びの楽しさを提供できる施設を目指しました。

#### ①誰もが知っている・わかりやすい施設を目指しました。

ポータルサイトの運用や情報誌の作成など、他学習センターとの情報の共有、効率化を図り、一体となった運営を行いました。

#### ②利用者の視点で利用しやすい施設づくりを行いました。

安全面での施設管理を前提に、誰もが気持ち良く利用ができるよう適切な維持管理を行いました。また、より利用者に使いやすく、利用者目線にたった施設運営を努めました。

#### ③ホスピタリティ溢れる利用者に優しい施設を目指しました。

利用する全ての方々に優しい施設となるよう、様々な年齢や障害者、外国籍の方々のことを理解するための研修を通して、分かりやすく親切な施設を目指しました。

### 3) 事業計画

#### ①事業方針及び事業内容

##### ア) 貸館事業

大和市が管理する学習施設予約システムを利用し、経費削減と利用者の利便性を重視した予約体制をとりました。利用条件・利用方法・支払方法に関しては、従来からの大和市生涯学習センター条例及び同施行規則に則り運営しました。

また、利用者のニーズを収集してサービス、設備の利便性・快適性、制度（利用ルール）において見直しが必要な箇所は市と協議を行い進めました。

##### a) 施設の貸出手続業務

- ・施設の設置目的や条例、施行規則に従って公共性に配慮した受付を行いました。

- ・「受付マニュアル」、「会計マニュアル」に則りオペレーションの統一を図りました。
- ・全ての業務でダブルチェックまたはそれ以上の重複チェックを徹底しました。
- ・取得情報の適切な管理を徹底しました。

#### b) 貸出手続きの流れ

「利用の手引き」に則り、利用者が円滑に手続きできるようサポートしました。

##### 抽選期間の場合



##### 随時受付の場合



#### 《利用者登録受付》

申請者に事前説明を行った上で、規定の利用者登録区分に沿って申請書を受け付け、迅速に書類を所管課へ提出しました。登録が決定した場合は、利用者カードと団体パスワードを利用者登録決定通知とともに送付しました。利用者登録の取消しの検討が必要な際には、ただちに市へ報告し、協議の上対応を決定しました。

#### 《利用申込み(仮予約)の受付》

大和市が管理する学習施設予約システムを利用し、照会・予約を行いました。利用条件・利用方法・支払い方法に関しては、従来からの規則で運営しました。

#### 《予約から利用料金のお支払いまで》

支払い方法は、窓口での支払いを原則としました。利用前までに料金を徴収し、申込みを完了させました。その際には、利用の変更・取消しに伴う利用料金の還付は原則として行わないことを事前に説明しました。減免利用の場合は適正な金額を徴収しました。

#### 《当日の対応》

受付時に施設の利用方法を丁寧に説明しました。料金の支払いが済んでいない場合、利用前に料金を徴収しました。

#### c) 経理業務と金銭管理

弊社独自の会計システムで一括管理し、本部バックアップ体制のもと業務に当たりました。予算管理や使途の妥当性・明確化について本部と施設が一体となって管理し、「会計マニュアル」に則り適切な予算・契約・会計・決算事務を行いました。

- ・生涯学習センターとして経理の担当者を配置し、経理業務を一括管理しました。
- ・「会計マニュアル」に則り、適切かつ安全な経理処理を行いました。
- ・当施設専用のバーチャル口座を活用し、利用料金や講座収入等の出入金を明確にしました。

#### d) アリーナの運営業務

利用者が快適に利用できるようルールを定め、安全に利用ができるよう備品の管理を行いました。個人利

用日を設け、一般の方に幅広くスポーツ場を提供しました。

e) 市民交流スペース、プレイルーム及び親子交流サロン・親子交流テラスの運営業務

利用者が快適に過ごせる環境の維持に努めました。定期的に職員が巡回し、安全管理やトラブルの防止に努めました。プレイルームでは定期的に無料の事業を展開し、子育て世代の支援を行いました。

f) 印刷スペースの運営業務

- ・登録団体や地域の社会教育に係る団体の活動支援用複写機、印刷機の管理を行いました。
- ・定期的に職員が巡回し、消耗品の補充等の対応を行いました。

イ) 生涯学習事業

「大和市生涯学習推進計画」に基づき、市民一人ひとりが学習を通じてつながり、学びあえる場を提供しました。乳幼児から高齢者まで、それぞれの世代に合わせた学習機会を提供し、一人ひとりが意欲的に楽しく学習できる講座を開催しました。

a) 生涯各期に合わせた講座、現代的課題に関する講座の開催

生涯各段階の特徴や地域の現代的課題を理解し、それぞれの学習ニーズに応じた学習の機会を整備し、講座を通して市民の学習への興味や意欲を高め、“受講側”としての学習だけに留まらず、その後の継続的な学習(団体・サークル活動化)のサポートを行うことで、市民が自主的に育ち、育ちあう学びの広がりを支援すると同時に、市民の居場所を提供しました。

講座は実施計画以上の開催となりました。

講師には地域で活動されている個人及び団体を多く活用し、地域の人材発掘にも努めました。業内容については、実施月の3ヶ月前までに決定しました。

《実施報告》

区分	H30年度 実施事業数/実施日数
乳幼児期	6事業/19日
青少年期	3事業/16日
成人期	2事業/2日
高齢期	2事業/6日
現代的課題	3事業/3日

【乳幼児期】

日付	会場	事業名	内容	参加者数
① 8/25	プレイルーム	おはなしのひろば「中央林間図書館」	絵本の読み聞かせを通して、絵本と出会い、絵本の楽しさ、親子の交流を提供する場づくりを目的に行いました。	① 82人
② 9/22				② 36人
③ 10/27				③ 46人
④ 11/24				④ 36人
⑤ 12/22				⑤ 29人
⑥ 1/26				⑥ 41人
⑦ 2/23				⑦ 38人
⑧ 3/23				⑧ 29人
① 9/12	プレイルーム	おはなしのひろば「ポプラ」	絵本の読み聞かせを通して、絵本と出会い、絵本の楽しさ、親子の交流を提供する場づくりを目的に行いました。	① 20人
② 10/10				② 36人
③ 11/14				③ 30人
④ 12/12				④ 29人

⑤ 1/9 ⑥ 2/16 ⑦ 3/13				⑤ 28人 ⑥ 21人 ⑦ 24人
① 12/9	プレイルーム	ポラリスで奏でるハンドベルコンサート	音楽を通して子どもたちの想像力豊かな心を育み、親子の交流や季節の行事を体験する場とした。	① 159人
① 1/30	Room2	オリジナルでつくる「あったか絵本」	手作り絵本を通して、親子のふれあいや絵本への出会いを即し、子育て支援を目的に行いました。	① 12人
① 2/2	Room6,7,8	小学館おはなし玉手箱～よみきかせキャラバン	声優による絵本の読み聞かせを行いました。	① 189人
① 3/31	プレイルーム	おはなしのひろば「えほんうた」	歌に合わせて絵本読み聞かせを行いました。	① 54人

### 【青少年期】

日付	会場	事業名	内容	参加者数
① 9/15 ② 10/20 ③ 11/17 ④ 12/15 ⑤ 2/16 ⑥ 3/16	Room6,7	あそび塾Ⅱ	工作やゲームをとおして、ものづくりの楽しさを実感し、異学年交流をとおして仲間づくりを目的に行いました。	① 6人 ② 4人 ③ 4人 ④ 13人 ⑤ 9人 ⑥ 11人
① 1/9 ② 1/15 ③ 1/21 ④ 2/4 ⑤ 2/12 ⑥ 2/26 ⑦ 3/13 ⑧ 3/18 ⑨ 3/27	Room7	放課後ルーム	地域の人とコミュニケーションをとる環境として、遊びの提供や友達作り、異学年との交流を目的として実施しました。	① 12人 ② 10人 ③ 2人 ④ 7人 ⑤ 6人 ⑥ 4人 ⑦ 4人 ⑧ 9人 ⑨ 18人
① 3/28	アリーナ全面	チャレンジ!カッコイイ走り方講座	正しいランニングフォームを通して、運動する楽しさや大切さを学びました。	① 57人

### 【成人期】

日付	会場	事業名	内容	参加者数
① 8/25	Room2	更年期を知れば知るほど好きになる「好年期」講座	更年期について正しい知識を学びました。	① 16人
① 3/23	Room7	お口の健口体操の輪	口腔機能の維持・向上をめざした舌や顔の体操、歯のお話など、実技を交えた学びの場を提供しました。	① 12人

### 【高齢期】

日付	会場	事業名	内容	参加者数
① 11/8 ② 11/15 ③ 11/22	①Room1,2 ②③Room7,8	北部シニアセミナー「ポラリスの集い」～ポラリスで!楽しいときをご一緒に!～	シニア層がそれぞれのニーズ(健康、趣味、教養、社会貢献など)を満たすことで、生きがいの感じられる、充実した活力ある生活を過ごし、QOL(生活の質)の向上を図りました。	① 16人 ② 28人 ③ 28人
① 2/18 ② 2/25 ③ 3/4	Room7	楽しく!かんたん!動いて健康!	椅子に座っての運動やコグニサイズを日常に取り入れて、日々の暮らしの中で健康を意識することを学びました。	① 21人 ② 17人 ③ 18人

### 【現代的課題】

日付	会場	事業名	内容	参加者数
① 9/25	Room2	ふろしきと暮らす～包む・結ぶ～	日本文化の見直しやエコの観点から風呂敷の活用方法などを学びました。	① 30人
① 10/18	Room2	お茶で巡る世界旅行	世界各国のお茶を通して、その国の文化やお茶の歴史を学びました。	① 35人
① 2/24	Room3	お笑い講座～探求心を身につけよう～	職業お笑い芸人の方にお越しいただき、職業について、チャレンジすることについて学びました。	① 5人

#### b) 地域や利用者と密接に連携した講座等の開催

旧林間学習センターで実施していた事業を以下のとおり実施しました。

事業日数	区分	事業名	内容	参加者数
7日① 9/12 ② 10/10 ③ 11/14 ④ 12/12 ⑤ 1/9 ⑥ 2/16 ⑦ 3/13	乳幼児期	おはなしのひろば「ポプラ」	絵本の読み聞かせを通して、絵本と出会い、絵本の楽しさ、親子の交流を提供する場づくりを目的に行いました。	① 20人 ② 36人 ③ 30人 ④ 29人 ⑤ 28人 ⑥ 21人 ⑦ 24人
① 9/15 ② 10/20 ③ 11/17 ④ 12/15 ⑤ 2/16 ⑥ 3/16	青少年期	あそび塾Ⅱ	工作やゲームをとおして、ものづくりの楽しさを実感し、異学年交流をとおして仲間づくりを目的に行いました。	① 6人 ② 4人 ③ 4人 ④ 13人 ⑤ 9人 ⑥ 11人
3/23	成人期	お口の中の健康講座	口腔機能の維持・向上をめざした舌や顔の体操、歯のお話など、実技を交えた学びの場を提供しました。	12人
① 11/8 ② 11/15 ③ 11/22	高齢期	シニアセミナー	シニア層がそれぞれのニーズ(健康、趣味、教養、社会貢献など)を満たすことで、生きがいの感じられる、充実した活力ある生活を過ごし、QOL(生活の質)の向上を図りました。	① 16人 ② 28人 ③ 28人

#### c) 生涯学習情報等の提供

生涯学習情報等の提供に関しては、市内をはじめ、近隣のさまざまな生涯学習情報を収集し、管理・提供しました。学習センターからの情報、登録団体の情報などを積極的に掲示し、利用者の活動支援に努めました。

#### d) やまと生涯学習ねっとわあく制度の運用

利用申請の受付をし、登録講師と制度利用者の連絡調整を行いました。また、制度自体の周知・広報に努めました。

#### e) どこでも講座の調整業務

どこでも講座メニューに掲載されている市の担当課と、利用を希望するグループとの連絡調整を行いました。

#### f) 特別教室開放事業

大和市配布のマニュアルに従い、特別教室開放事業に関する受付業務及び各学校管理者との連絡調整を行いました。

## ウ) 地域活性化事業

当施設の事業を中心に、市民にコミュニティ活動の機会や場所を提供し、地域コミュニティ活動の活性化につながる“きっかけづくり”を積極的に進めました。

### a) センターまつりの開催

センターまつりの企画・運営を行いました。当学習センターの利用団体の成果発表の場として、展示、体験コーナー、舞台発表等を実施しました。利用団体の自主的な活動を促すため、市民参加型（実行委員会、役員会等での運営）での開催としました。

・開催日：平成 30 年 10 月 27 日（土）、28 日（日）

### b) 地域文化振興事業の実施

地域で文化振興や生涯学習に関わる事業で活躍される団体及び個人と協力し、クリスマス会、芝居小屋を実施しました。

※ちびっ子パラダイスは 7 月に旧林間学習センターで実施済み。

31 年度より、開館記念日である 8 月 1 日を中心とした夏休み期間中に、文化やスポーツを通して地域の子どもたちのふれあいの場づくりとして、地域団体の協力のもと、イベントを開催します。

・あわてんぼうのクリスマス会 開催日：平成 30 年 12 月 1 日（土）

・第 1 回ポラりん村の芝居小屋 開催日：平成 31 年 3 月 10 日（日）

### c) 利用者懇談及び利用者説明会の開催

・開館に伴い施設利用に関する説明会を 2018 年 8 月 1 日に実施いたしました。利用者懇談会は 1 年間の運営状況をみて頂き、来年 8 月に実施します。

### d) 生涯学習の推進に寄与する団体支援業務

利用団体の活動を支援し、団体活動の活性化を図ります。受付窓口が常時団体相談窓口として機能するよう積極的に団体の支援に努めました。

生涯学習に寄与する団体を支援する取組みとして、「まなびの輪支援事業」を活用しました。本事業では、市民の生涯学習を推進するために、団体が広く市民を対象として実施する公益的な社会教育事業に対する支援を行いました。生涯学習団体が、自らの学習成果を地域に還元し、市民の交流を生み出す「まなびの輪」を構築する支援を目指しました。

## エ) 館長会議、市内学習センターとの連絡調整会議への参加

館長会議には、原則として毎回館長が出席しました。また連絡調整会議には、議題に応じて該当部門の担当者が参加しました。

また、企画事業など 5 館での日程の調整の他にも、相互に情報を共有し、講座や事業の内容の向上を図りました。

## オ) 施設内の市民向けインターネット利用環境の整備

・大和市公衆無線 LAN と同等の環境を整備し、利用者に提供しました。また、利用方法のご案内を積極的

に行い、利用者の利便性向上に努めました。

・学習施設予約システム向けの市民端末を設置し、貸室予約の利便性を図りました。

## ②実施体制

館長以下、企画運営部門、総務施設利用部門で連携して実施しました。また、現場のみならず本部による万全のバックアップ体制を整えることで、クオリティの維持・向上、新企画の立案・実施、効率的な運営等、民間らしい管理運営体制を構築しました。

また、すべての事業において主担当・副担当を配置し、相互に業務を補完しあえる体制を構築しました。

## (5) その他事項

### 1) 情報発信に関する取り組み

#### ①情報発信の展開

##### ア) ホームページ

ホームページでは、最新の情報や施設の魅力を知ることができるように情報を網羅したページ作りを行いました。フェイスブックのバナーなど、情報を充実させるとともに、誰にでも見やすく、分かりやすいホームページを目指しました。

##### イ) 地域との連携

地域情報誌の広報における相互協力や、商店街の地域イベントへの積極的な参加を通じて地域と連携いたしました。

##### ウ) 中央館及び地区館、大和市立中央林間図書館との連携

広報紙やチラシの相互配架や、デジタルサイネージの相互情報発信、事業連携を検討し、利用者の利便性や拡大を図りました。

##### エ) 施設に関するパンフレットや事業のチラシ、利用情報をまとめた機関紙の発行

施設利用に関するパンフレットは随時更新を行い、最新の情報を提供いたしました。また実施事業に関するチラシの配架を行い、多くの方にご参加いただけるよう努めました。

### 2) 要望・苦情への対応

1階の受付近辺にご意見箱を設置し、来館者の皆さまから要望、苦情などを頂いています。また、窓口や電話での要望・苦情などについても、しっかりと傾聴する意識を持って丁寧な対応を行なうよう努めてまいりました。

頂いた意見は、その都度、大和市の担当課と協議の上、誠実に対応を進めてまいりました。

### 【3. 施設の維持管理に関すること】

#### (1) 基本的な考え方

ポラリスは学びや交流、健康など様々な世代の来館者を支援する施設です。

施設を維持管理するのにあたり、施設の特徴を踏まえて、以下の3項目を基本方針として業務を行い安全に円滑に運営されるように努めました。

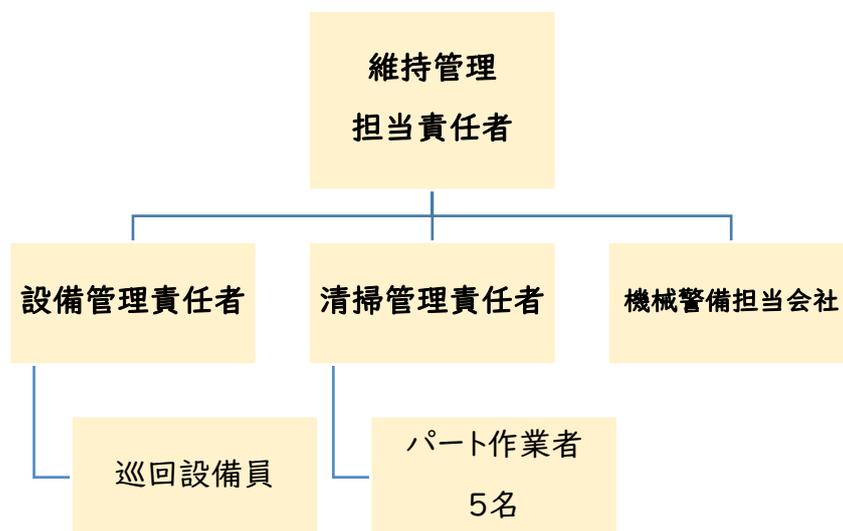
#### 【基本方針】

- I 安全・安心の提供
- II 快適の提供
- III コスト削減と施設・設備の長寿命化の両立

#### (2) 実施体制及び人員体制（下方の施設維持管理体制図をご参照ください）

- ①設備員は、週 1 回の巡回点検を通じ、建物及び設備機器の異音・異臭・不具合等の定性的情報と機器データ等の定量的情報を把握し、設備の安定稼働の維持に努めます。また、空調機等の設備機器の設定調整により来館者の快適さと省エネの両立を目指します。
- ②清掃員は、開館の午前 9 時前に貸し部屋エリアの日常清掃を終わらせ、その後に共用エリアの清掃を実施します。また午後巡回点検清掃を実施し、常に快適に過ごしていただけるように努めます。定期的にシリウスの清掃責任者が巡回点検をすることにより、シリウスと同レベルの品質の確保に努めています。
- ③警備は利用者が不在となる夜間は機械警備に切替え、不正侵入の防止などの防犯体制を維持します。

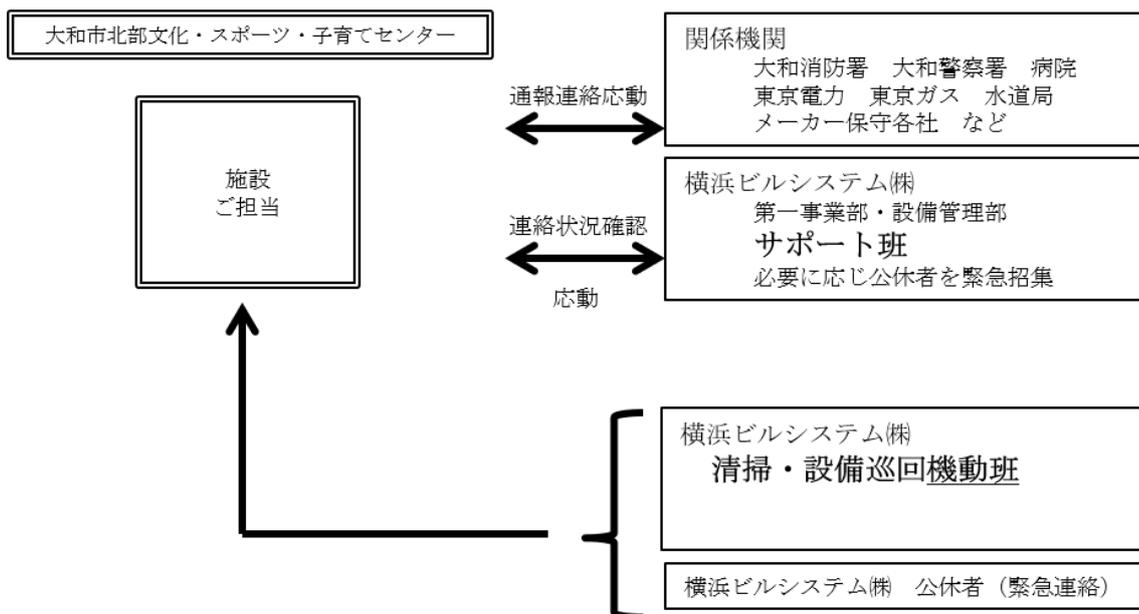
<施設維持管理体制図>



#### (3) 安全管理と緊急時の対応

下記のバックアップ体制図に基づき、状況に応じた緊急対応の方法を定めています。

関係各所と連絡を密に取り、迅速適切に対応しました。



#### (4) 環境への配慮と経費低減への取り組み

①施設と設備機器を予防保全の観点で管理し、中長期的な経費低減を目指します。そのため清掃時や設備巡回時に気付いた軽微な不具合は都度補修し、施設と設備機器の長寿命化を図るために、各設備の検履歴、故障履歴、補修履歴等の内容を把握することにより適切な対応を行いました。これにより過剰な点検と補修を予防しつつ長寿命化を実現し、コストの削減を図りました。

②環境配慮と経費節減に小さな努力を積み重ねます。例えば

- ・消耗品類の大和市グリーン購入推進指針に則る購入、エコマテリアルの購入
- ・廃棄物の適切な分別によるリサイクル率の向上を図る
- ・可能な限り必要な設備機器だけを動かす

#### 【4. 管理に係る経費に関すること】

##### (1) 経費削減への取り組み

###### 1) 基本的な考え方

- 各部門が連携して業務の共有化を図ることで、必要最少人数で運営を行いました。一人で複数の業務を兼任できる体制を構築し、無理のない業務統合を図りました。
- 省資源・省エネについては職員の節約意識の徹底と利用者への啓発活動を通して、利用者と共に経費削減に努めました。
- 文化創造拠点シリウスとの連携により、可能な限り経費を抑えた備品の調達、物的資源、人的資源の確保に努めました。
- 設備機器の点検をこまめに実施し、軽微な補修は巡回する設備員が行うことにより、機器類の寿命を延ばし中長期のコスト削減に努めました。

###### 2) 情報の共有

施設の運営に関し、最もコストがかかるのは人件費です。適正な人員で最大のパフォーマンスを発揮するために、市や各施設間との情報共有を徹底し、お客様目線に立ち、サービス向上に繋げてまいりました。

## 2. 収支決算概要

収入		支出	
指定管理料 (市が指定管理者に払った金額)	47,611,200	人件費 (指定管理者が雇用した職員の 給料、諸手当、福利厚生等の金額)	27,134,901
事業収入	6,001,623	事業費	1,465,921
協賛金・補助金等収入 (助成金等)	0	事務費	7,932,717
その他収入 (駐車場利用料)	0	維持管理費	16,567,200
		修繕費	4,568
収入計(①)	53,612,823	支出計(②)	53,105,307
収支決算(①-②)		507,516	

### 3. 管理運営に関する評価等

指定管理者の管理運営に関する評価は、次のとおりです。

評価にあたっては、指定管理者選定の審査項目をもとに行い、令和元年8月20日に文化創造拠点等運営審議会からの意見聴取を行いました。

#### 【総合評価】

屋内球技ができるアリーナを有する学習センターとしては本市初となる施設において、民間ならではのノウハウが生かされた管理運営により、昨年8月1日のオープン以来大きな事故もなく、これまで学習センターを利用したことのない層の取り込みにも成果があったものと捉えています。

一部、手続きに不備があった点が見受けられたが、全体としては概ね良好な管理運営であったものと判断します。

今後は、利用者層の一層の拡大と、学びの場としての活動促進に向けたきっかけづくりとして、アリーナ等のスポーツ設備の有効活用をはじめとする様々な取組を推進し、更なる利用サービスの充実を期待します。

#### 【個別評価】

指定管理者選定の審査項目に対する評価は、概ね事業計画書どおりの水準でした。評価の視点1～4に基づく評価結果は、以下のとおりです。

評価の視点1：施設を利用する人に対し、平等な利用の確保及びサービスの向上が図られたか。

- ・民間ならではのノウハウを生かし、お笑い芸人による青少年健全育成講座や声優による絵本の読み聞かせなどこれまでになかった講座を実施し、受講者の満足度向上につなげました。
- ・ホームページでの周知や館内掲示により、積極的にサービス内容の周知を行ったことにより、年間来館者数も目標値の200,000人の1.38倍を超える277,439人の来館者を迎えることができました。
- ・幅広い年齢層が来館している状況を踏まえ、学びへのきっかけとなる取組に期待します。

評価の視点2：施設の効用が最大限に発揮された事業運営が行われたか。

- ・一般の利用者や学習団体だけでなくスポーツ関連団体など多彩な地域団体の利用者ニーズに対し、館長以下の現場各部門が本部と連携してきめ細かく対応している点は評価できます。

評価の視点3：施設の適切な維持及び管理が行われたか。

- ・電気主任技術者の変更諸手続きが大幅に遅延したことについて、担当事業者の管理体制が著しく不十分であり、市による所管官庁への対応も必要になるなど課題がありました。
- ・環境負荷の軽減については、照明の調整など、引き続き工夫に努めてください。

評価の視点4：施設の管理を安定して行う人員、資産その他の経営の規模及び能力を有しているか。

- ・施設の管理を安定して行う人員、資産その他の経営の規模及び能力については、特に問題ありませんでした。